

～調査ご協力のお願い～

芦屋町では、令和5年度に「芦屋町地域福祉計画」を策定することとし、現在その準備作業を進めております。

この計画は、住民と行政とが協働して、住民一人ひとりが助け合い、地域住民の立場から地域福祉の推進を目指すものです。

計画策定にあたりまして、皆様のお考えやご意見をお寄せいただくため、アンケート調査をお願いすることといたしました。貴重な資料とさせていただきますので、ご協力をお願い申し上げます。●分程度ですべての設問にお答えいただけます。

今回の調査では、本町在住の18歳以上の方の中から2,000名を無作為(ランダム)で調査対象に選ばせていただきました。

回答していただいた内容に関しては、統計データとしてのみ使用し、個々の調査票を公表したり、個人名や個人的な内容などが外部に漏れることは一切ありません。

大変お忙しい中恐縮ですが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

令和5年●月

芦屋町長 波多野 茂丸

【 ご記入にあたって 】

1. この調査は、氏名を書く必要はありません。
2. この調査の回答は、ご本人が回答してください。ご本人の記入が難しい場合は、ご家族の方などがご本人の意見を十分に聞きながらご記入ください。
3. 回答は設問ごとに「いずれか1つに○」、「あてはまるものすべてに○」など、それぞれ指定されていますので、ご注意ください。
4. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて令和●年●月●日(●)までに郵便ポストにご投函ください。(差出人の氏名を書く必要はありません。)
5. その他、本調査についてご不明の点がありましたら、下記までお問い合わせください。

【 調査に関するお問い合わせ先 】

芦屋町役場 福祉課 高齢支援係

電話：093-223-3536 FAX：093-222-2010

地域福祉とは？



地域福祉とは、地域で困っていることなどの様々な課題に対して、地域の中でお互いに助けたり助けられたりする関係を作り、子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らせるよう取り組むことです。

例えば、地域の方とあいさつすることや、子どもや高齢者の安全を地域で見守ることも地域福祉の活動と言えます。

地域社会とは？

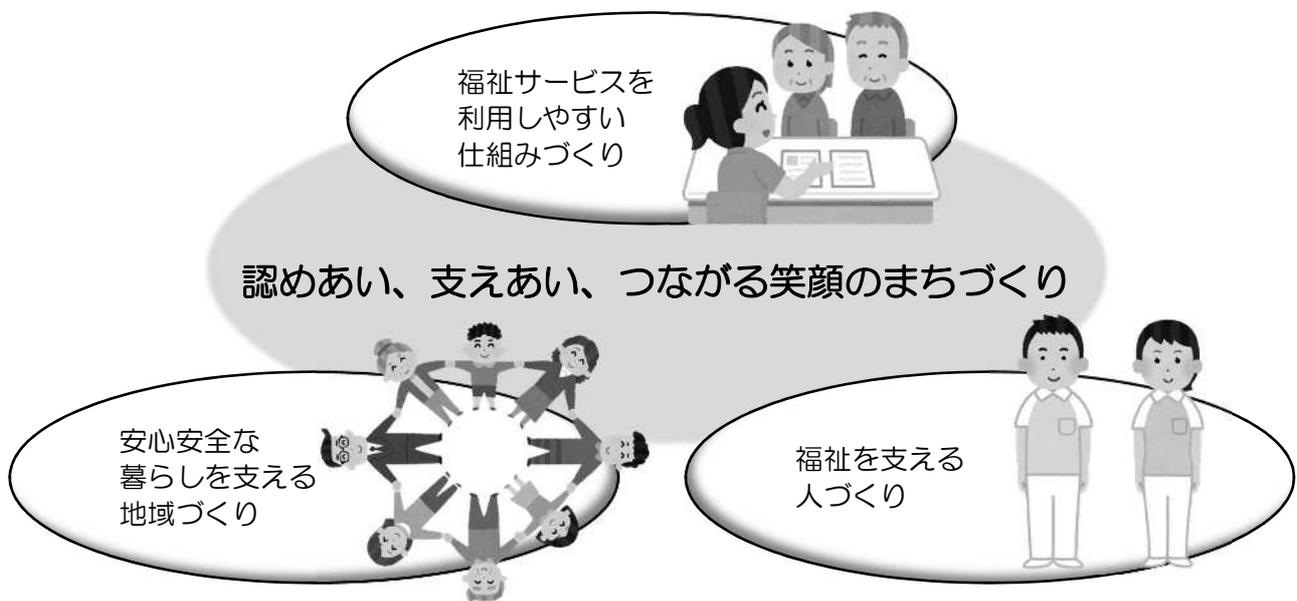


制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を言います。

これまでの取り組み



これまで芦屋町では、「認めあい、支えあい、つながる笑顔のまちづくり」を目指し、取り組みを進めてきました。



地域共生社会を目指すこれからの芦屋町に必要な取り組みを検討するためには、地域のことや、日ごろ感じる課題などを一番よく知っている地域の皆様のご意見が必要不可欠です。

より暮らしやすいまちづくりのために、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いします。

「福祉」について

問1 あなたは、「福祉」に関心をお持ちですか。(いずれか1つに○)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. とても関心がある | 3. あまり関心がない |
| 2. ある程度関心がある | 4. まったく関心がない |

問2 「福祉」のあり方は、どのようであるべきだと思いますか。(いずれか1つに○)

1. 福祉を必要とする人は、家族や親戚が面倒をみればよい
2. 福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき
3. 福祉は、すべてを行政に頼らず、住民同士で助け合うべき
4. 福祉は、行政と住民が協力しながら、地域で支え合う組織づくりをすべき
5. その他 ()

問3 あなたは、住民が福祉について理解を深めるためには、どのような機会が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと
2. 介護体験や介護を必要とする人の疑似体験など、体験学習をすること
3. 介護を必要とする人やその家族介護者などの話を聞いたり、交流したりすること
4. 手話や点字、介護方法などの技術を習得すること
5. 住民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること
6. その他 ()
7. 特に必要なことはない

問4 あなたは、地域の一人ひとりが抱える生活課題に対する、住民同士の助け合いや支えあいの必要性についてどう思いますか。(いずれか1つに○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. とても必要だと思う | 4. あまり必要だと思わない |
| 2. ある程度必要だと思う | 5. まったく必要だと思わない |
| 3. どちらとも言えない | |



地域での生活について

問5 あなたは、ふだんの程度、人と会話や世間話をしますか。(家族との会話や電話でのあいさつ程度の会話を含みます。)(いずれか1つに○)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. 毎日 | 4. 2週間に1回 |
| 2. 2～3日に1回 | 5. 1か月に1回 |
| 3. 4～7日(1週間)に1回 | 6. ほとんど話をしない |

問6 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。(いずれか1つに○)

1. 困っている時(病気、悩み、事故など)に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある
2. 校区や区、隣近所の行事の時だけつきあう
3. たまに立ち話をする程度
4. 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない
5. つきあいがほとんどない

→ 問6で「4. 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」「5. つきあいがほとんどない」と回答した方におうかがいします。

問6-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. あまり知らないから | 6. 時間をさくのが惜しいから |
| 2. 関わる機会や時間がないから | 7. 人とのつきあいが苦手だから |
| 3. 家族にまかせているから | 8. つきあいをしたいがどうしたらよいかわからない |
| 4. 特に必要を感じないから | 9. その他() |
| 5. わずらわしいから | |

全員におうかがいします。

問7 地域での人と人との関わりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください。(あてはまるものすべてに○)

1. 心から打ち解け合える関係を築きたい
2. 隣近所の人とはつきあいを大切にしたい
3. 地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい
4. 他人の協力は期待していない(自分のことは自分です)
5. 地域の人や隣近所の人とは関わりを持ちたくない
6. 興味がない
7. その他()

問8 あなた自身やご家族に日常生活上の支援が必要になったとき、地域の人にどのような支援をしてほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 8. 急病になったときの看病 |
| 2. 心配ごとなどの相談相手 | 9. 介護を必要とする人の短時間の預かり |
| 3. 子どもの短時間の預かり | 10. 災害時の手助け |
| 4. 買い物の手伝い | 11. 日常的な話し相手 |
| 5. 家事の手伝い | 12. その他() |
| 6. 外出の手伝い | 13. 特にない |
| 7. ごみ出しの手伝い | |

問9 あなたの身近なところで、日常生活上困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援ができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 8. 急病になったときの看病 |
| 2. 心配ごとなどの相談相手 | 9. 介護を必要とする人の短時間の預かり |
| 3. 子どもの短時間の預かり | 10. 災害時の手助け |
| 4. 買い物の手伝い | 11. 日常的な話し相手 |
| 5. 家事の手伝い | 12. その他() |
| 6. 外出の手伝い | 13. 特にない |
| 7. ごみ出しの手伝い | |

地域活動や福祉に関するボランティアについて

問10 あなたは、現在、自治区や子ども会、老人クラブなどの地域活動やボランティア活動に参加していますか。(いずれか1つに○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 現在活動している |
| 2. 過去に活動したことがあるが、現在活動していない |
| 3. 活動したことがない |

問10で「1. 現在活動している」と回答した方におうかがいします。

問10-1 どんな活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 校区の活動(校区育成会など) | 5. ボランティア活動(高齢者支援) |
| 2. 自治区の活動 | 6. ボランティア活動(障がい者支援) |
| 3. 子ども会・PTAの活動 | 7. ボランティア活動(子育て支援) |
| 4. 老人クラブの活動 | 8. その他() |

問10-2へ

----->問 10 で「2. 過去に活動したことがあるが、現在活動していない」「3. 活動したことがない」と回答した方におうかがいします。

問 10-2 現在活動していない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 勤務などの都合で機会がない | 7. 体調がすぐれない |
| 2. 引越して間もない | 8. 知り合いがいない |
| 3. 参加方法がわからない | 9. いやな思いをしたくない |
| 4. 時間がない | 10. 役が回ってこない |
| 5. 興味がない | 11. 自治区に入っていない |
| 6. 家の人気が気にする | 12. その他() |

全員におうかがいします。

問 11 あなたは、今後、自治区や子ども会、老人クラブなどの地域活動や福祉ボランティア活動に参加したいと思いませんか。(いずれか1つに○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 今も参加しており今後も続ける | 4. 参加したいと思わない |
| 2. 参加したい | 5. 今まで参加していたがやめたい |
| 3. 機会があれば参加したい | 6. わからない |

問 12 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発化することが重要になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思いませんか。(あてはまるもの3つまでに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする |
| 2. 地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する |
| 3. 地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う |
| 4. リーダーや福祉活動に携わる人を養成する |
| 5. 福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る |
| 6. 困っている人と助けることのできる人をつなぐ人材を育成する |
| 7. 困っている人や、助け合いの場や組織の情報を得やすくする |
| 8. 介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う |
| 9. 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する |
| 10. その他() |
| 11. 特にない |

生活困窮者の自立支援について

働きたくても仕事がない、家族の介護のために仕事ができない、再就職に失敗して雇用保険が切れた、あるいは、社会に出るのが怖くなった…。このような、さまざまな困難の中で生活に困窮している人に対して、包括的な支援を行う「生活困窮者自立支援制度」が平成 27 年 4 月から始まりました。

この制度の一環として県が設置する「自立相談支援事務所(困りごと相談室)」では、経済的な問題等の解決に向け、ご本人と一緒に解決策を探すことができます。※

このように、生活困窮者の様々な課題を個別で解決するのではなく、地域社会全体の課題として解決していく仕組みを創り出していくことで、課題発生の予防を図ることが求められています。

※福岡県自立相談支援事務所(遠賀郡・鞍手郡) 電話番号:093-203-1630

問 22 自立相談支援事務所(困りごと相談室)の行う生活困窮者への支援について、あなたは知っていましたか。(いずれか1つに○)

1. 聞いたこともあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが内容はよくわからない
3. 知らなかった

問 23 あなたの生活状況が急変し、生活費に困るようなことになったとき、どこ(誰)に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 芦屋町役場等の公的機関 | 8. 福祉活動をしている民間団体 |
| 2. 芦屋町地域包括支援センター | 9. 家族・親戚 |
| 3. 芦屋町子育て支援センター | 10. 友人・知人 |
| 4. 芦屋町社会福祉協議会の窓口 | 11. 学校・職場 |
| 5. 民生委員・児童委員 | 12. その他() |
| 6. 自治区の役員 | 13. 相談するところがない |
| 7. 医療機関や高齢・障がい者福祉施設等 | 14. 相談はしない |



自殺対策について

我が国の自殺者は令和元年まで10年連続で減少していましたが、令和2年には11年ぶりの増加となり、約2万1,000人の方が亡くなっています。

国では、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指して、様々な対策を実施しており、その一環として、身近な行政機関である市町村において自殺対策計画を策定し、地域の実情に勘案した効果的な自殺対策を行うことされています。

問 24 自殺対策は自分自身に関わることだと思いますか。(いずれか1つに○)

1. そう思う
2. どちらかと言えばそう思う
3. どちらかと言えばそうは思わない
4. そうは思わない
5. わからない

問 25 あなたは、これまでの人生の中で、自殺したい、またはそれに近いことを考えたことがありますか。(いずれか1つに○)

1. 考えたことがある
2. 考えたことがない

→ 問 25 で「1. 考えたことがある」と回答した方におうかがいします。

問 25-1 それはいつ頃ですか。(いずれか1つに○)

1. 1年以内
2. 1年～5年以内
3. 5年～10年以内
4. 10年以上前

→ 問 25 で「1. 考えたことがある」と回答した方におうかがいします。

この設問について負担に感じる方はお答えいただくなくても構いません。

問 25-2 自殺したい、またはそれに近いことを考えた理由や原因は、どのようなことでしたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家庭の問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病など）
2. 病気など健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩みなど）
3. 経済的な問題（倒産、事業不振、借金、失業、生活困窮など）
4. 勤務関係の問題（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など）
5. 男女関係の問題（失恋、結婚をめぐる悩みなど）
6. 学校の問題（いじめ、学業不振、教師・クラスメイト等との人間関係など）
7. その他（ ）

問 25
| 3
・
問 25
| 4
へ

→問 25 で「1. 考えたことがある」と回答した方におうかがいします。

この設問について負担に感じる方はお答えいただくなくても構いません。

問 25-3 自殺したい、またはそれに近いことを考えた時に、誰に相談しましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家族や親戚
2. 友人や同僚
3. 近所の知り合い
4. 公的機関の職員（役場、保健所など）
5. 職場の関係者（同僚、上司など）
6. カウンセラーや相談機関
7. 学校の先生
8. インターネット上だけのつながりの人
9. 電話相談員
10. その他（)
11. 相談したことはない

→問 25 で「1. 考えたことがある」と回答した方におうかがいします。

この設問について負担に感じる方はお答えいただくなくても構いません。

問 25-4 自殺したい、またはそれに近いことを考えた時に、どのようにして自殺を思いとどまりましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった
2. 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家、弁護士や司法書士、公的機関の相談員等、悩みの元となる分野の専門家に相談した
3. 家族や恋人など身近な人が悲しむことを考えた
4. できるだけ休養を取るようにした
5. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた
6. 将来を楽観的に考えるようにした
7. 我慢した
8. 自殺を試みたが、死にきれなかった
9. まだ「思いとどまれた」とは言えない
10. その他（)
11. 特に何もしなかった

成年後見制度について

成年後見制度とは、認知症や知的障がい・精神障がいにより財産管理や日常生活に支障がある人の法律行為を支える制度です。

問 28 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(いずれか1つに○)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. よく知っている | 3. 言葉だけは知っている |
| 2. ある程度知っている | 4. まったく知らない |

問 29 あなた自身やご家族が、認知症などにより判断が十分にできなくなった場合、「成年後見制度」を利用したいと思いませんか。(いずれか1つに○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 利用したい | 3. 利用しない(したくない) |
| 2. 利用したいができない | 4. わからない |

問 30 成年後見制度の利用促進を行う場合、最も効果的と思われる取り組みは何ですか。(いずれか1つに○)

1. 広報紙などを通じた住民全体への制度の周知
2. 専門職による講演会などを通じた住民への啓発
3. 相談会の開催などによる、制度の利用を検討している人への個別支援
4. 裁判所への申立て費用や後見人への報酬支払い等に関する金銭面での支援
5. 後見人の支援のための関係機関ネットワークなどの体制づくり
6. その他 ()
7. わからない



これからの福祉のあり方について

問 31 今後、芦屋町が地域福祉を推進するうえで、どのようなことが重要だと思いますか。以下の項目について、今後の重要度と現在の満足度を教えてください。(項目ごとに、いずれか1つに○)

項目ごとの満足度・重要度にそれぞれ 1つずつ○をしてください。	現在の満足度 各項目に対し、どの程度満足と感じているか				今後の重要度 各項目に対し、どの程度重要と感じているか			
	満足	やや満足	やや不満	不満	重要	やや重要	あまり重要ではない	重要ではない
1. 福祉に関する情報提供・案内の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 住民同士や行政との協力・連携づくり	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 地域活動への参加の促進や支援	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 身近なところでの相談窓口の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
5. ボランティアの育成と活動の促進	1	2	3	4	1	2	3	4
6. 芦屋町社会福祉協議会の取り組みに対する支援	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 高齢者への支援の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 子育て世帯への支援の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 障がい者への支援の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
10. 災害時の避難行動要支援者対策の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
11. 生活困窮者自立支援の推進	1	2	3	4	1	2	3	4
12. 防犯・防災対策の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
13. 福祉に関する活動拠点（施設）の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 保健・医療サービスの充実	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 福祉に関する人材の育成	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 公共の場のバリアフリー化	1	2	3	4	1	2	3	4
17. 福祉教育の充実	1	2	3	4	1	2	3	4



問 32 今後、地域福祉の推進のためにどのようなことに特に力を入れて取り組む必要があると思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 自治区等を基盤とした地域の支えあいのしくみづくり
2. ボランティアの育成と活動の促進
3. 身近なところでの相談窓口の充実
4. 福祉に関する情報提供の充実
5. 高齢者や障がいのある人が安心して在宅生活を続けられる福祉サービス提供体制づくり
6. 福祉サービスの拠点となる場所や施設の整備
7. 福祉サービスの質を評価するためのしくみづくり
8. 福祉教育の充実
9. 芦屋町らしいサービスの充実
10. その他 ()
11. 特にない

→ 問 32 で「9. 芦屋町らしいサービスの充実」と回答した方におうかがいします。

問 32-1 「芦屋町らしさ」や「芦屋町らしいサービス」について、ご意見・ご要望等がございましたら、自由にお書きください。

問 33 誰もが住みやすい「地域づくり」を進めていくため、芦屋町に対するご意見やご要望がございましたら、自由にお書きください。

以上で調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。